

## (第 120 回) 神奈川研究会議事メモ

開催日	2021 年 8 月 10 日 (火)	出席者 敬称略	坂下勲・西村二郎・山崎博・松村眞・ 大谷宏・持田典秋・小林浩之・宮本公 明・飯塚弘・神田稔久
時間	15:00~17:00		
場所	TV 会議方式		
資料	1) 環境エネルギー総覧の報告と SCE・Net の関わり 2) 日本の長所・起源と伝承		
議題	<p><u>課題 1. 「環境エネルギー総覧」の報告と SCE・Net の関わり</u></p> <p>① この課題は化学工学便覧の改訂 7 版「環境化学工学」の執筆が経緯。大学の「環境」と名がつく学部と学科のシラバスを調査した結果、名ばかりの科目が多く共通性が乏しいことに気がついた。</p> <p>② 問題は環境問題も環境対策も体系化が不十分で、網羅的・系統的な分類がないことにあると考えた。</p> <p>③ そこで全環境問題と全環境対策を分類し、分野ごとに化学工学の寄与を具体的に整理した。環境対策は環境負荷物質の発生抑制、環境負荷物質の無害化処理、法体系や環境アセスメントなど環境管理の 3 分野に大別した。</p> <p>④ 従来にない分類なので、この分類で平易な解説書があれば関係者にとって大いに参考になると考え、「環境・エネルギー総覧」の構成と内容を設計した。</p> <p>⑤ 従来の解説書にない特徴は、問題と対策の分離、最多で 8 ページの編単位での自己完結、ビジネスマンや教官など一般社会人向けの解説。</p> <p>⑥ 設計に続けて執筆を開始し、約 130 編・430 ページを脱稿し HP に掲載。今後は電子出版を検討中。SCENET との関わりを持たせるか否か検討中。</p> <p><u>課題 2. 「日本の長所・起源と伝承」の分析報告</u></p> <p>① この課題は、東北大震災で見られた被災者の冷静な対応に関する外国人の賞賛</p> <p>② 日本人の長所とされたが、日本の長所とは何か、起源は何か、伝承の方法は何かを知りたくなった。参考資料を探したが見出せず、自分で整理を開始。</p> <p>③ 素材は外国人日本研究者の書籍と訪日滞在者のブログ。</p> <p>④ 素材の整理と簡素化、および普遍化を経て長所の意見 130 件を抽出。</p> <p>⑤ 起源を想定して長所と結びつくシナリオを推察。起源は「自然環境」、「稲作農業」、「江戸時代の町人文化」、「3 宗教 (儒教、神道、仏教)」、「市場経済の発展」、「島国」、「天皇制」とした。</p> <p>⑥ 結果は「自然環境」が約 1 割、「稲作農業」の共同体指向が約 5 割、「市場経済の発展」が約 2 割、「江戸時代の町人文化」が 5%、「島国」、「天皇制」、「3 宗教」は 5% 以下になった。なお、「市場経済の発展」は伝統的な長所ではない。</p> <p>⑦ 共同体指向の割合が多いのは、日本人の素養と社会性に大きな影響を与えているからである。「自然環境」は日本の「美」に大きな影響を与えているが、災害時の対応に見られる長所は、自然災害が多いので発達したものと推察される。</p> <p>⑧ 「3 宗教」、「島国」、「天皇制」は影響が大きくなかった。</p> <p>⑨ 伝承・継承は 25 の方法を設定し、130 件の長所の持続性寄与度を評価してみた。その結果、大部分の長所は持続性が高いことがわかったが、工芸と文化は持続性に不安があることがわかった。政策的な支援が必要ではないか。</p> <p>⑩ 日本は世界から見ると、共同体指向の点でかなり特異な国だと気がついた。共同体指向は、現在も学校教育、企業組織、社会制度などで広範囲に継承されている。</p>		

#### 発表者からのコメント（松村）

私見だが、共同体指向には次の三つの負の側面がある。個人的な才能の早期発見と育成の阻害、他人との差異による排除といじめ（成長すると嫉妬に代わる）、自律的な意思決定と行動力の阻害（組織依存度が高く受け身姿勢）である。長所に付随する負の側面に注意して配慮すれば、もっとよい国になる可能性があると思う。長所の素材には100年以上も前の指摘から、現時点の感想まで含まれている。発信者も多様な立場と経験からの意見なので、長所の分布と評価には客観性の担保に限界がある。それでも個人的に漫然と気になっていた疑問が、かなりの程度まで解明できたと思っている。

#### 参加者からのコメント（神田）

日本の長所：起源と伝承、主観的に取り扱われがちなテーマを、客観化するための松村さんの努力と勇気に敬意を表します。そのための手法も松村さんらしく、体系化し、かつ寄与度で定量化を試みるなど、文系の学者も、このような手法を使って分析を試みて欲しいと思いました。

ただ、テーマが活着している物だけに時間と共に変化し、松村さんが思い立てたから10年の間にも、今現在の受け止めと異なるものも見受けられました。

おわりに⑤で、「自分の国を誇りに思って良いと思うようになった」とのコメントがありましたが私も同感です。最近、慢心や他からの苦言を聞こうとしない傾向も見られ心配しています。

⑧の「日本人に生まれるのではなく、日本人になるのだ」という指摘は、日本が外国人を受け入れる時に持って欲しいものと思いました。森氏が言った「最終の聖火ランナーは純粋の日本人にしたかった。」と言うような発言の生まれたい国になって欲しいと思います。

#### 参加者からのコメント（西村）

日本人の国民性について説く著作は沢山あります。自然環境や社会制度、日本古来の神道に中国伝来の仏教の影響を受け、儒学、朱子学、陽明学などの学問を取り込み、日本流に発展させ武士道という思想などが生まれました。そうした土壌の上に立ち、欧米の植民地になることもなく、明治維新をやり遂げ、日清・日露戦争で勝利し、太平洋戦争で敗戦国となり、現在の日本へと繋がっています。

松村さんの労作は日本人の国民性を表わしている「データ」の収集であり、貴重な情報だと思いました。

私は日本人の創造性について不満があります。アジア人としては良い線を行っているが、重要な原理原則は欧米人から与えられ、それを応用する面で才能を発揮した（例えば、半導体）いわば二流国ではないかという引け目を感じています。松村データを分析し、どの特性を伸ばせば一流国になれるか、が次なるテーマかと思っています。

#### 参加者からのコメント（宮本）

今回テーマに挙げられた極めて社会科学的な課題を、大量の資料を読み込み独自の視点で分類し、外国人が長所として挙げる「日本人の素養」の起源が「共同体志向」にあると述べられていることは納得のいく結論ですし、そのような結論をデータから導かれた点に敬意を表します。

また、コメントに書かれたように負の側面に着目して、これらの負の要素に配慮する必要性を述べられている点も、良い研究だと賛同します。このあと、最初に列挙された日本の良さの項目で、長所の逆も必ずしも短所でないものと、長所の逆は間違いなく短所であるものを分別されると、論旨がクリアーになるのではないかと感じました。以下に独断と偏見ですが例をあげて説明します。

「共同体志向」が長所も短所も併せ持つとの思いを強くしたのは、先日のオリンピック男子 4X100m リレーでバトンパスの失敗のあと、TV 解説の朝原 宣治氏の「バトンパスだけに頼るリレーではなく、個人技の強化も必要」とのコメントを聞いた時でした。チームワークだけでは危うさが残るとするのは常日頃感じていたところ

です。私の前職はコーティング技術ですが、これは、次から次にトラブルが発生する工程でして、特に原材料管理を行うケミストとプロセス条件を管理するプロセスエンジニアの連携が重要でした。日本の工場では同じグループでこれら 2 集団をまとめて責任を持たせると、相談してどちらかが過負荷になりそうなら役割を越えて協力できたのですが、米国工場では、どちらのグループが対処すべきかで、まず論争が起きます。これに対処するために、その上の立場でジャッジを下すと、それなりにうまくいくのは、名監督、名選手のいるスポーツチームが強いと同じです。

結局、「共同体志向」と「個人技志向」はコインの裏表のことが多く、どのようなフェーズでどちらに重きをおくかを選べれば良い選択と言われるのではないかと思います。

#### 参加者からのコメント（飯塚）

松村さんの「日本の長所：起源と伝承」の調査研究は、よくこういう仕事ができるなど感服しました。私にはとてもできません。松村さんらしく分野別に分類するなど工学的手法を用いて、『日本の長所』という極めて観念的な概念の起源を想定し、その継承方法と寄与率を考察しました。大変失礼とは存じますが、結果についてはそれ程違和感を覚えません。なるほどと感じました。

日本の長所の選択には、日本に滞在した外国人、一定期間を外国で生活した日本人で、日本の長所に気付いた人の意見をベースにしています。その長所の起源が、自然環境、稲作農業、3 宗教、江戸時代の文化、市場経済の発達、島国、天皇制にあるとしています。特に稲作農業の影響が大きく全体の半分、また稲作農業の共同体指向は日本の戦後の高度経済成長を生み出す原動力となったようです。すなわち、日本の長所の大部分は稲作農業の共同体指向に起源を持つと言えます。

なるほどとは思いますが、それ程大きいのかなと思ったりします。定量的でない所が弱いです。どうすればよいのか。あるいは数百人の方にアンケートをして多少でも客観性を持たせるか。その数百人の方をどう選ぶのか。難題です。

松村さんも指摘しているように、共同体指向は日本の長所であり短所でもあります。人と異なることをやることを嫌うことで、独創的な風土が生まれなかったとも言えます。渡辺京二氏の著「逝きし世の面影」のように、外国人が見た明治初期の日本庶民のつつましい生活、親切心等は、明治維新の際、西洋文明の導入と従来の日本文化の否定により、表向きは伝承されませんでした。しかし、渋沢栄一のように、農民出身であり共同体指向をもった事業家が、明治時代に出資家を集めて新事業を起こす資本主義社会を興しました。手段は西洋方式ですが、その心は共同体意識の和洋折衷かも知れません。古き良きものは残し時代に対応することが大事なのかも知れません。変化に対応できるものだけが生き残ります。

参加者からのコメント（小林）

松村さんの投稿は、いつもながら力強く理路整然としており、その点に何より敬意を表したい。そのうえで失礼になることがあるかもしれないが、コメントしたい。

**課題 1**；この論文は何度か聞かして、もらったことがある。本来はこの種の業務は先生方に取り上げられ（むしろそれ以上の当事者である）、数々の意見もお持ちであろうからぜひ取り込むことが必要である。シラバスにもカリキュラムにも直接絡むテーマである。松村真というブランドで、シャットアウトビッドすることもあるかもしれないが、できるなら化学工学会として正当化すべきテーマである。しかし今更、時間もないのであきらめざるを得まい。わたしのような余人にも意見はある。しかしこれは正しさを競うのではなく、自分の対象に対し持つ愛の強さのようなものを競うのであって、実際、最初のころでできた余人のコメントに決して譲ろうとされなかったのは印象的です。私自身は、このことは松村さんの自分史をも乗せた思考のすべてで、後輩に託す手紙のようなものだという気がしています。そうしてほしい。発信する場所は其の意味で SCE・Net か、自身のHPでもよい。若干、松村さんのお仕事としては時間がかかりましたが、思いが十分に伝わるよう温めて、あたためて、世に問うてほしい。

**課題 2**；特質としてとりだすなら別だが、長所としてとりだしたり、ましてそれを絶対評価するのは松村さんと言えども無理があるのでしょうか、というべきくらいむつかしいテーマです。かつての教育研究会でもこのような試みがあったが、個人の価値観を問うこともあって、年齢による組織の乖離ができたのをおぼえている。昔、ユダヤ・ペンダサン、こと山本七平氏が「日本人とユダヤ人」という、その実日本人の評価をなされたわかりやすく面白い本であった。絶対音感ともいべき絶対評価能力をもつ山本さんからしてそうなのである。第一多く人は能力がなく、その議論にも参加できない。やるなら特質というかたちで取り上げて、それが長所、短所として現れるところをみるがよい。たとえば昭和史の代表的な太平洋戦争を見るとき、開戦時隙間をねらうような奇襲攻撃を試みた日本海軍と、国民の資質と、終わって空襲、沖縄、広島で一般市民までふくめて虐殺された事実を、リベンジという感情もなくうけいれた日本国民にどちらに正当性をみるのかわたしにはわからないが議論の価値はある。正しさを追求する議論ではない、という前提だからである。日本国民本来の長所を見る。短所を見る、両方やって初めて評価できる。松村さんの挑戦には敬意を表す。「日本人論」は5万とある。まずこのへんからはじめられたタラと思う。

参加者からのコメント（大谷）

**「課題 1」**。「環境エネルギー総覧」の報告と SCE・Net の関わり

折角の労作、出来るだけ多くの人目に触れて、必要な人に、有効に活用されるようになってもらいたいものです。その点からは、SCE・Net のHPに紹介文を掲載するか、SCE・Net（場合によっては神奈川研究会でも良いかもしれない）の推薦文を掲載するなどの措置があっても良いのではないかと思います。どうでしょうか。

**「課題 2」**。「日本の長所・起源と伝承」の分析報告

大変ユニークな視点からの「日本論」「日本文化論」だと思います。ただ、勝手な事を言わせていただけるなら、私には、日本の長所だけを取り上げただけでは、日本や日本文化を立体的に捉えることが出来ないように思えるのです。日本と言う国や日本文化について奥行きのある議論を展開したいと思ったら、その良い点ばかりではなく

「陰の部分」、即ち「短所」についても分析する必要があるのではないのでしょうか。私の勝手な希望としては、松村さんに今回の日本の長所分析で駆使した手法と全く同様の手法を用いて、今後、「日本の短所」の分析研究をもやっていただきたいものです。そしてその上で、この二つの分析結果を統合して松村式「日本論」「日本文化論」を構築していただければ、他に類を見ない有用な結果が得られるのではないのでしょうか。

#### 参加者からのコメント（坂下）

**課題2** この種の課題については、自分の専門でない又何から始めてよいか迷うもので、勇気と覚悟が要ります。よく踏み出しました。質問したかったのは、我々企業人が企業の為と称して社員がギセイ（犠牲）になる、所謂「企業戦士」のことでしたが、納得いく討論がありませんでした。

というのは、2013年1月のアルジェリア「イナメナス人質事件」について、その後、日揮さんの社内でどう対応されたか、併せて日本人と対異宗教行動について、長所・短所の対応の論議や対応の情報があれば、得難い参考になりますので、教えて欲しいと思います。私事ですが坂下も約8年、イスラム教の国インドネシアに勤務し、その厳しさを経験し、強い宗教だという印象をもっています。ご存じのようにハラルに違反すると、手痛い罰に処される「法律<宗教」の社会だからです。

蛇足ながら、坂下自身は、日本人の長所・短所につき、和辻哲郎の日本人の思想史や倫理史（岩波：絶版）から始めて、少しばかり文献を読みました。

#### 参加者からのコメント（持田）

**課題1** 環境エネルギー総覧に関しては、以前から報告されていたものが完成したものと受け止めています。膨大なページを一人で完成されたのは大変なことです。

お疲れさまでした。

**課題2** 日本人の長所に関しては、やはり短所と対比しながら、論じてもらいたいと思います。また、昔の立派な図書を読破された内容と、最近のネットで集めた情報に何となく時代のずれを感じます。もちろん一貫した評価もありますが。

日本人の発明に対する評価も欲しいところです。カラオケ、インスタントラーメン、アニメ（映画を含め）、ノートパソコン、点字ブロック、光触媒、イベルメクチン（抗寄生虫薬）など世界へ大きな影響を与えています。

一方、最近の子どもの虐待やいじめのことを考えると、子供にやさしい社会とは到底思えません。心が痛んでニュースをまともに見られません。

#### 参加者からのコメント（山崎）

**課題1** 昨年の神奈川研究会（107回）で紹介されたテーマですが、約130編・430ページを脱稿されたとのこと。大変な時間と努力に敬服します。現在は個人のHPで掲載中とのことですが、これでは折角の資料も閲覧する読者は限られます。

SCE・NetのHPに「会員HPへの窓」を新設して会員HPへのリンクを設け、広く閲覧を希望する技術資料などを公開したら良いと思います。幹事会で検討されてはどうでしょうか。会員同士も、誰がどのようなHPを持っているのか興味があります。趣味の公開や、自分史など、その内容は多岐に渡ると思います。

**課題2** 社会学のテーマです。日本人は外国人からどう見られているかを特に気にする国民のようです。世界各国の外国人をスタジオに集めて日本の良いところを具体的に聴く「クールジャパン」というTV番組が定期的に放映されています。

日本人の長所として、松村さんの表では19. 温和（他人と争わない）、20. 優しい（思いやりがある）が抽出されています。日本人は自己主張を慎み、謙虚さを身につけ、思いやりを持って人の気持を汲み取ろうとします。「人との争いを避け」、「人への思いやりの心」は幼い頃からのしつけや教育によって日本人の心の深層に自然に植えつけられていきました。日本人の大切に「和」の心に通じます。

相手が何を望んでいるかを言外に汲んで、相手を満足させるべく行動するのが「人への思いやりの心」であり、本来の道理を外した場合が「忖度」です。国会の森友学園問題では、「忖度」の有無が大きな問題になりました。官僚は証拠が残らないため「忖度」を巧みに利用します。国有地売却をめぐる財務省の決裁文書改ざん問題で、板挟みとなった近畿財務局職員の赤木氏が自殺に追い込まれました。日本文化の組織的な悪用のマイナス面が悲劇を生みました。「おもてなし」も「忖度」もルーツは（相手の気持を汲む行動）ですが、「忖度」は組織的責任を取らされる場面も出てきます。暗黙の了解、以心伝心、察し合い、婉曲表現などを避けて、グローバル社会では、はっきり言葉にして伝える言語文化を育てるべきでしょう。英語では「忖度」を表す適切な言葉がないようです。

日本の長所として安全社会が挙げられます。人口10万人あたりの殺人発生率は、ロシア8.21、米国4.96、韓国0.60、仏1.20、フィンランド1.63に比べて、日本0.26人と少なく世界でも有数の安全国です。

日本社会の人口10万人あたりの自殺発生率は、ロシア31.0、韓国26.9、仏17.7、米国15.3、フィンランド15.9に比べて、日本は18.5となっており、G7中ではトップとなっています。日本人の自殺原因は、40歳以上では健康問題と経済・生活問題、中学・高校生はイジメなどの学校問題です。若い世代の「死因トップが自殺」はG7中で日本だけです。イジメは「仲間への寛容度の欠如」です。聖徳太子の「和をもって尊しとなす」の心は、ややもすると反対意見を封じムラの高質性を求めるのではなく、異なる意見や個性の違いをよく議論して理解し、寛容で柔軟な意思決定の組織構造を求めることが本来の姿と解釈します。国連が今年3月に発表した「世界幸福度ランキング」では、1位フィンランド、2位デンマーク、3位スイスで、日本は56位となっています。フィンランドと日本は何がどう違うのでしょうか。

今回の課題との関連では、百円ショップ、漫画・アニメ、コンビニ、ハイテクトイレ、宅配便などを広く分析した下記論文は、一読の価値ありと思います。

三浦俊彦「クールジャパンの理論的分析」-C00(原産国)効果・国家ブランドと快楽的消費- 商学論纂(中央大学)第56巻第3・4号(2014年11月)

<https://core.ac.uk/download/pdf/229760715.pdf>

#### 発表者の最終コメント (松村)

**課題1**, 脱稿しても単位、フォント、用語の不統一など細かい校正ミスが残っていたので、最近まで校正を続けていました。今週になってやっと最終校正が終わり、HP掲載原稿も全編を修正しました。

これで「製作」段階が終わったので、これから閲覧者らを増やす方法を考えます。電子出版も一つの方法ですが、無償で構わないので、山崎さんが提案されたSCE・NetのHPに「会員HPへの窓」を新設し、会員HPへのリンクを設けるのに賛成です。幹事会に提起し検討されることを期待します。宮本さん、いかがでしょうか。会員も他の会員が開示しているHPに関心や興味があるでしょうし、外部にSCE・Netを広く知ってもらうのにも有益と思います。

**課題2**, 多くの方からコメントを頂き、ありがとうございました。関心のあるテーマだったのでしょう。長所と対比できる短所や、長所と短所を区別しない日本の「特質」に着目した起源と伝承方法の整理も有益と思います。しかし、個人の意見や認識が対象なので、なるべく偏らない素材の収集が課題になると思います。私は広く集めることで客観性を高めようとしたのですが、収集した素材からの意見の抽出、表現の具体化、普遍化、重複の排除、簡素化に限界も感じていました。効果的に意見を集めるなら調査対象の母集団を事前に選定し、設問を設定する方が適していると思いますが、個人活動の範囲を超えるでしょう。今回は自分の疑問が出発点でしたから、この程度で区

	切りとしました。ご了解ください。なお、オリンピックが終わるとすぐに大雨と水害の発生です。緊急時の冷静さや秩序には、日本の伝統的な文化や素養に起源があると始めは思っていたのですが、実際はこれだけ頻繁に自然災害があると必然的に対処の方法が発達したように思えます。
	2. 今後の予定 9月 神田氏 10月 見学会 11月 持田氏 12月 小林氏 1月 山崎氏 2月 猪股氏 3月 飯塚氏 4月 西村氏 5月 見学会 6月 宮本氏 7月 大谷氏 8月 松村氏
次回日程	1. 日時 令和3年9月14日(火) 15時~17時 2. 場所 未定 3. 技術課題 神田氏から提供
次々回日程	1. 日時 令和3年10月12日(火) 13時~17時 2. 場所 物流博物館ほか